

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 第1会場<br>セッション1<br>No. 4 | <b>郡上市地域包括ケアネットワーク研究会<br/>(ねこの子ネットワーク研究会)のあゆみ</b>               |
|                         | 発表者 丸茂 紀子 (岐阜県 郡上市医師会)<br>共同研究者 後藤 忠雄 (岐阜県 県北西部地域医療センター 国保白鳥病院) |



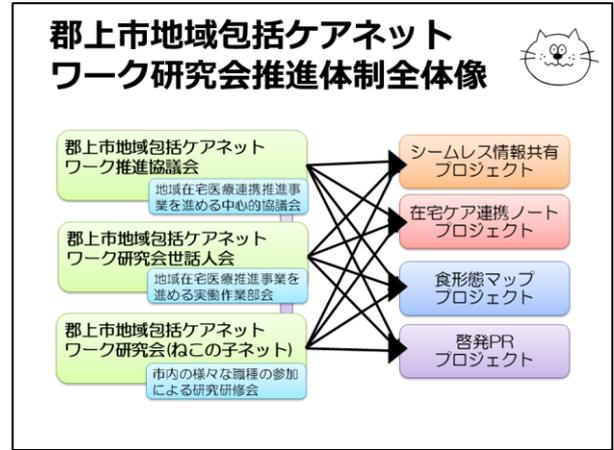
**郡上市地域包括ケアネットワーク研究会  
(ねこの子ネットワーク研究会)のあゆみ**

ねづかせよう  
この地域に  
こころのこもった  
ネットワークを

郡上市医師会地域包括ケア  
ネットワーク研究会  
事務局 丸茂紀子  
医師 後藤忠雄



郡上市医師会が取り組んでいる「郡上市地域包括  
医ケアネットワーク研究会 (通称:ねこの子ネットワ  
ーク研究会)」について報告します。



郡上市地域包括ケアネットワーク研究会の推進の  
全体像ですが、事業推進の中心的役割を担う「郡上市  
地域包括ケアネットワーク推進協議会」と事業推進  
の実働部会となる「世話人会」で構成され、情報共有  
システム構築や地域住民への普及啓発活動など各種  
事業の企画・実施に関わっています。



**背景・目的**

- 当医師会では、平成25年度より郡上市から委託を受け、地域包括ケア体制の構築を目指して「郡上市地域包括ケアネットワーク研究会」を運営している
- 今年度で12年目を迎え、研究会のあゆみに関し振り返る

郡上市医師会では、郡上市から委託を受け、医療・  
介護・福祉・保健等の多職種多機関連携による途切れ  
のない支援体制を構築するために、平成25年に「郡  
上市地域包括医ケアネットワーク研究会 (通称:ねこ  
の子ネットワーク研究会)」を立ち上げ活動していま  
す。今年度で12年目となりましたので、その活動を  
振り返り報告します。



**事業推進体制**

**郡上市地域包括ケアネットワーク推進協議会**

- 地域在宅医療連携推進事業を進めるための中心的協議会(平成26年度開始)
- 地域在宅医療連携推進事業及び郡上市の地域包括ケアシステム確立のためにその方向性、事業内容、事業評価などを行う
- メンバーは、医療・介護・福祉・行政・市民代表 計23名
- 年3回開催

**郡上市地域包括ケアネットワーク研究会世話人会**

- 地域在宅医療連携推進事業及び郡上市の地域包括ケアシステム確立のための実働的作業を行う作業部会(平成25年度開始)
- メンバーは、医師・歯科医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・看護師・保健師・ケアマネジャー・介護職員・社協職員・地域包括支援センター職員 計26名
- 年約10回開催

推進協議会は、平成26年度から組織され、医療・  
介護・福祉・行政・市民代表からなる23名で構成さ  
れ、年3回開催しており、包括ケアシステム構築のた  
め、在宅医療介護連携事業内容の検討・評価を行って  
います。

世話人会は、平成25年度に研修会終了後の有志か

ら立ち上がり、現在は多職種 26 名で構成されています。在宅医療介護連携推進事業を数名ずつ担当し、年間の事業計画及び推進と世話人全員の情報共有のため、年 8～10 回会議を開催しています。

**活動：**

**①地域包括ケアネットワーク研究会(ねこの子ネットワーク研究会)**

・市内の保健医療福祉関係者が参加し、郡上市における在宅医療推進も含めた地域包括ケアを構築するための研究会

- 事例検討や講演、システムづくりなどを議論
- 研究会周知：医療機関、歯科医院、調剤薬局、介護保険事業所、障害福祉サービス事業所、行政
- 年 4 回開催 令和 6 年 11 月開催で通算 44 回開催

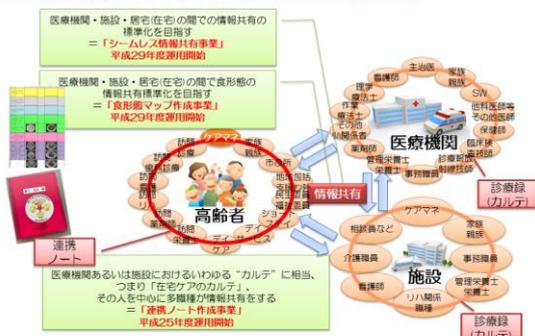



「地域包括ケアネットワーク研究会」は、平成 25 年度から開催し 3 か月に 1 回開催しています。

その目的は、市内の保健医療福祉関係者がお互いに顔の見える環境の中で、地域包括ケアを構築するための意見交換の場とすること、また知識の伝達のみでなく各職域が各々の立場で、情報の共有と互いの価値観が共有できることであり、この考え方を大切に開催しています。これまでの開催内容は、講演会、システムづくりの検討などに加え、パーティー形式の交流会なども行ってきました。

**活動：**

**②情報共有システムの構築**



医療機関・施設・居宅(在宅)の間の情報共有の標準化を目指す  
=「システム連携共有事業」平成 29 年度運用開始

医療機関・施設・居宅(在宅)の間の食形態の情報共有標準化を目指す  
=「食形態マップ作成事業」平成 29 年度運用開始

医療機関あるいは施設におけるいわゆる「カルテ」に相当、つまり「在宅ケアのカルテ」、その人を中心に多職種が情報共有をする  
=「連携ノート作成事業」平成 25 年度運用開始



多職種多機関の情報共有ツールとして 3 つの事業に取り組みました。

1 つ目は、「共通連携ノート」の作成とその運用で

す。通称「赤いノート」と呼んでいます。在宅療養者を中心に多職種が情報共有するための「在宅ケアのカルテ」として、平成 25 年度に作成しました。昨年度までに 2 回の様式改訂及び新様式を追加し運用しています。

2 つ目は、市内病院と入所・入居施設間での食形態の情報共有標準化を目指す「郡上市食形態マップ」です。平成 29 年度に作成し運用していますが、今年度は、介護保険通所系事業所の食形態を調査し、医療機関、施設、在宅間の情報共有を目指しています。

3 つ目は、情報提供用紙としての、「医療・介護連携シート」通称「トキシート」です。平成 29 年度に各病院、施設、在宅間での患者・利用者情報共有を目的に作成し、昨年度までに 2 回の様式改訂を行い運用しています。

**活動：**

**③資源の把握及び情報公開**

- 在宅ケア施設ケアネットワーク情報公開事業
  - 保健医療福祉関係者に対して、各サービス施設の窓口などの一覧表を配布(平成 26 年度開始)
  - 市内の医療介護福祉関係施設の情報を、医師会のホームページにて IT を利用した情報公開
- 在宅医療・在宅介護支援マップ
  - 市内の医療機関、介護事業所、障がい福祉事業所の機能等の社会資源情報を冊子にまとめ、医療・介護関係者の連携強化及び地域住民へ適切な医療・介護へのサービス提供を図る
  - 平成 26 年度初版作成→全戸配布
  - 令和 3 年度改訂版作成、令和 6 年度ダイジェスト版作成
- 在宅医療・介護市民向け情報公開事業
  - 「ねこの子通信」ニュースレター：市民向けに 2 か月に 1 回全戸配布(令和 6 年 10 月発行で第 50 号)
  - 「ねこの子通信 Pro」：専門職向けにメールにて情報提供




資源の把握と情報公開として、1 つ目は、「在宅医療介護連携支援ブック」で、平成 26 年度から医療機関や薬局、事業所間の連携がとりやすくなることを目的に作成し、各施設の窓口担当者などを一覧にして、毎年情報更新を行い各機関に配布しています。また、医師会ホームページには、市内医療介護福祉関連施設情報を掲載しています。

2 つ目は、「在宅医療・在宅介護支援マップ」で、市内医療・介護・福祉事業所機能を社会資源情報誌として、平成 26 年度に初版を作成し医療・介護関係機関の連携強化を図っています。

3 つ目は、「ねこの子通信」で、市民向けの情報公開のため発行しています。A4 用紙 1 枚の両面に市民

向けに在宅医療介護福祉の情報を分かり易く掲載することに心がけ、市広報誌と一緒に全戸配布しています。これとは別に専門職向けに情報提供として「ねこの子通信 Pro」をメール配信しています。

#### 活動：

##### ④在宅ケアに関する啓発事業



- 市民向け講演会(年1回開催)
- 自治会や公民館活動に参加し、講話や寸劇などにより普及啓発
- CATV(郡上市ケーブルテレビ)を利用した普及啓発

資源の把握と情報公開として4つ目は、在宅ケアに関する啓発事業で、市民向け講演会は、平成27年度から年1回開催しています。その他平成28年度からは、自治会や公民館活動などの小集会に出向き、在宅医療や介護についての講話を行っています。新型コロナウイルスにより対面での活動は一時期中断していましたが、CATV(郡上市ケーブルテレビ)を利用し、市民向けに番組を作成し放映しました。

#### 結果



- 在宅医療介護連携推進事業の推進体制は、多職種がかかわる仕組みを基本に取り組みしており、重層的に多職種連携構築が推進された
- 事業推進の実働メンバーは、必ずしも固定しているわけではなく異動もあり、負担もシェアがされている
- 医師会を中心として、国保施設スタッフをはじめとする公民様々な施設から様々な職種が、多くかかわることによって継続的な取り組みを可能にしていた

本事業の推進において、各種事業の計画・実施には、実働メンバーとして多職種が関わる体制をとることにより、特定のメンバーに負担がかからない仕組みとなっています。また、実働メンバーには、医師会を中心として国保施設職員も含め公的・民間の医療介

護施設からの参加により、現在までの継続的な取り組みができていると考えられます。

#### 結論



- 多職種連携をキーワードに、軸になる組織と仕組みによって、事業の継続的な取り組みが可能となる



医療・介護・福祉・保健等の多職種多機関連携による支援体制の構築と継続的な取り組みのためには、軸となる組織と仕組みが重要であると考えられます。今後も事業の推進に努力していきたいと思っております。